山梨医大紀要　第10巻，57—68（1993）

対人関係における deception（嘘）

渋谷昌三，渋谷園枝

対人関係の中で，deception(嘘)がどのように利用されているのかを分析した。この研究のために，大学生と社会人の男女を対象にアンケート調査を行った。嘘に関する自由記述の内容分析から，次の傾向がみられた。

(1)嘘についてのイメージは，①嘘は悪いものと考える人，②消極的だが嘘を肯定的に考える人，③嘘を肯定的に考える人，④嘘の一般論を述べる人に分類することができた。(2)嘘のイメージと lie scale の関係から，嘘は悪いものと考える女性は lie scale の得点が高かった。(3)嘘の内容は，全体として，12パターンに分類することができた。とくに，「予防線」と命名された嘘は，嘘の体験記述の総件数のうち29%で，同様に，「その場のがれ」の嘘は16%だった。

嘘をつく対象者と嘘の内容についての分析から，それぞれの人の人間関係の特徴を推測できることがわかった。

キーワード：deception，嘘，対人関係

I　研究目的

「嘘も方便」という格言がある。嘘が好ましくないのは当然であるが，時と場合によっては，嘘が良い結果をもたらすこともある。そこで，本論文では，対人場面における嘘に限定し，嘘が対人関係のなかでどのように使われているのかについての基礎的な分析を試みた。

嘘に相当する言葉として，deception, lie, cheating, faking などが考えられる。Journal of Nonverbal Behavior では deception に関する特集(1988年，12巻3号及び4号)[1,2]を行っている。この特集では，相手に実害を与えることのない deception の効用に関する論文が掲載されている。

本論文では，嘘を deception の考え方に基づいて，対人場面にみられる deception の役割を検討することにした。

日本の deception 関係の論文に，最近のものでは，大坊と瀧本(1992)[3]，湯田と古谷(1988)[4]，工藤(1981)[5]がある。単行本に，三宅(1989)[6]，仲村と井上(1982)[7]，相場(1965)[8]がある。また，訳書には，エクマン(1992)[9]，リッチ(1989)[10]，ボク(1982)[11]，ヴァインリヒ(1973)[12]がある。

外国雑誌には，非言語コミュニケーションを中心に多数の論文が発表されている。数年来，著者はある大学のゼミナールで deception 関係の論文を体系的にとりあげている。本論文では，deception の概念の分類，研究展望などは言及しないが，これらの問題は本紀要の次巻でとりあげる予定である。

II　方　　法

1．質問紙の作成と実施

3つの質問で構成された質問紙を作成した。その具対的な内容は次のとおりである。

【質問1】嘘（うそ）についての調査をしています。「こっそり，うそをついてしまった」という経験をした人は多いようです。もし，うそをついた経験がありましたら，その経験を下欄にご記入ください。

（注）①「どんなうそ」②「いつごろ」③「だれに？」④「その結果はどうなりましたか？」の順に自由記述の形式で回答を求めた。こうした回答欄は3つあり，複数の回答を求めた。

山梨県中巨摩郡玉穂町山梨医科大学心理学
（受付：1993年9月13日）

表1　被験者数（人）

	男性			女性		
	被験者総数	嘘イメージ分析対象数	嘘の内容分析対象数	被験者総数	嘘イメージ分析対象数	嘘の内容分析対象数
G大学生	106	97	55	57	55	43
社会人A	18	16	11	6	6	4
社会人B	7	7	5	7	7	6
社会人C	6		6	11		11
社会人D	6		6	2		2

【質問2】嘘（うそ）という言葉に，あなたはどんなイメージ（印象）をもっていますか。それを下欄に書いてください。

（注）空欄の中に自由記述の形式で回答を求めた。

【質問3】次の文章を読んで，あてはまるもの全部に✓印をおつけください。

（注）MAS顕在的不安尺度（Taylor，1943）[13]の中からLie scaleの文章だけを抜粋して15項目の設問を作成した。ただし，選挙に関係した一つの設問は大学生の大半が未成年ということで分析の段階で除外した。

この質問紙では，大学生については出欠を確認するために学籍番号を自由意思で記入してもらった。社会人については無記名であった。また，いずれの場合にも性別に丸をつけてもらった。

調査は次の手続きで実施された。筆者が授業終了時や研修終了時に質問紙を直接配布し，その場で回答するように求めた。調査時期は1989年12月～1990年2月の間であった。

2．被験者

被験者は都内の私立大学一年生男性106人と女性57人，社会人男性37人と女性26人だった。社会人のうち，Aは公務員関係，Bは会社員関係，Cは大学で学んでいる社会人，Dは学校関係の人である（表1）。

ただし，無回答だったり，回答が不十分だったりした調査票を除外したので，分析対象とした回答数は表1のようになった。なお，社会人Cと社会人Dに関しては，嘘のイメージについての回答を求めなかったので分析対象者数が記載されていない。

3．分析方法

質問1と質問2については，自由記述の内容をいくつかのカテゴリーに分類した。分類作業は次の手続きで行なわれた。二人の筆者がそれぞれ独立に分類作業を行った後，分類が食い違っている記述内容に関しては，協議の上，分類を決定した。その結果，嘘のイメージは4カテゴリーに，嘘の内容は12カテゴリーに分類することができた。

質問3については，各項目にチェックがある場合を1点として，15項目で，合計15点になるように集計した。ただし，未成年者にふさわしくない1項目を除外したので，最終的には，合計14点満点で集計した。

Ⅲ　結果と考察

本論では，次の事項に関する分析を試みた。ただし，今回は⑤の分析を割愛した。

①嘘イメージのタイプ分け
②嘘イメージとライ・スケールとの関係
③嘘の内容分析とタイプ分け
④嘘をつく相手とつく嘘のタイプとの関連
⑤嘘イメージのタイプと嘘のタイプとの関連

表2　嘘のイメージの全体的傾向（人数）

	G大学生		社会人	
	男性	女性	男性	女性
悪いもの	29（27）	15（26）	5（20）	3（23）
消極・肯定	11（10）	8（14）	1（4）	2（15）
積極・肯定	33（31）	21（37）	14（56）	4（31）
総論的意見	24（23）	11（19）	3（12）	4（31）
記述無し	9（9）	2（4）	2（8）	0（0）
	106（100）	57（100）	25（100）	13（100）

［注］（　）内は%を示す

表３　嘘の記述の有無と嘘のイメージ（人数）

	G大学生・男性		G大学生・女性	
	嘘記述あり	嘘記述なし	嘘記述あり	嘘記述なし
悪いもの	21（ 31）	8（ 24）	12（ 24）	3（ 38）
消極・肯定	8（ 12）	3（ 8）	7（ 14）	1（ 13）
積極・肯定	23（ 34）	10（ 26）	20（ 41）	1（ 13）
総論的意見	16（ 23）	8（ 21）	10（ 21）	1（ 13）
イメージの記述なし	0（ 0）	9（ 24）	0（ 0）	2（ 25）
計	68（100）	38（100）	49（100）	8（100）

（注）（　）内は％を示す

	社会人男性		社会人女性	
	嘘記述あり	嘘記述なし	嘘記述あり	嘘記述なし
悪いもの	5	0	3	0
消極・肯定	0	1	2	0
積極・肯定	10	4	3	1
総論的意見	3	0	3	1
イメージの記述なし	0	2	0	0
計	18	7	11	2

1．嘘イメージのタイプ分け

被験者に，自由回答の形で記入してもらった「嘘のイメージ」を分析した。

この分析の対象となったのは，嘘のイメージの記述がなかったものをのぞくと，G大学生の男性97名，女性55名，社会人の男性23名，女性13名であった（表１，２）。

分析の結果，次のような４つのパターンが見出された。

①悪いもの：「人をだますこと」「悪い」「ずるい」「きたない」というように，嘘に対する悪いイメージを記述したもので，嘘を否定的にとらえたもの

②消極的肯定：嘘は必要かもしれないが，やはり悪いことで，できるかぎり使いたくない，という形で，嘘を消極的に認めるもの

③積極的肯定：「嘘も方便」という形で，嘘の効用を積極的に認めるもの

④総論的記述：嘘は悪いとか必要といった自分の態度や考えを述べるのではなく，「人との摩擦を少なくするもの」「人間関係の潤滑油」というように，辞書のような総論的意見を述べているもの

この４つのパターンの出現率は，大学生，社会人，また男女を通じてほぼ同じであった（表２）。

もっとも多かったのは「積極的肯定」タイプで，30～40％の人がこれに該当した。次に多かったのは「悪いもの」タイプで，これは20～30％であった。また，「総論的意見」タイプは20％前後，「消極的肯定」タイプは10％程度であった。

2．嘘の記述の有無

被験者に，自分のついた嘘を記入してくれるよう求めたが，まず，その記述があるかどうかをみた。その分析対象は，G大学生の男性106名，女性57名，社会人の男性25名，女性13名である（表１，３）。

嘘の記述があったのは，G大学生の男性の64％，女性の86％，社会人の男性の72％，女性の85％だった。

大学生と社会人とでは，分析対象となった人数にはかなり差があるのだが，記述の有無の人数比は，ことに女性において，かなり似通ったものになった。

ところで，女性は男性よりかなり多くの嘘の体験を本質問紙に記述していた。その背景として，次のような性差が考えられる。

第１に，自己開示との関連性である。自己開示とは，ほかの人に対して自分についての情報を言語的に伝達することである。ジュラルドの心理療法家と

しての経験に基づいた研究（Jourard & Lazakov, 1958）[14]によると，女性の方が男性より，自己開示しやすい。とくに，母親と女性の友人に対する自己開示の程度が高いことがわかっている。

自己開示の性差からすると，女性は男性より，嘘をついた経験を記述しやすいと考えられる。

第2に，嘘をつくときの動機づけとの関連性である。たとえば，嘘の話をしてもらうという実験場面の分析（DePaulo, et al., 1985）[15]によると，女性の被験者は男性の被験者より，嘘をつこうとする動機づけが高くなる。ただし，女性は，嘘をつく動機が高まり過ぎるので，かえって，嘘が露呈しやすいこともわかっている。

こうした傾向からすると，女性は何らかの嘘をついたとき，そのことが記憶に残りやすいと考えることができる。一方，男性は嘘をつくときの動機付けが低いので，嘘が思い出しにくいといえるだろう。

第3に，これは余談だが，男性は嘘をついても嘘をついたことがないとか，記憶にないなどといって，嘘をつきやすい性向があるのかもしれない。

3．嘘の記述の有無と嘘のイメージ

嘘のイメージの「積極的肯定」と「消極的肯定」を合わせて嘘の「肯定派」，「悪いもの」を嘘の「否定派」と考え，嘘の具体例を書いた人と書かなかった人との出現率の違いを見た（表3）。

嘘の具体例の記述をしたG大学生の女性の半数以上（55%）は「肯定派」で，「否定派」は24%であった。

また，G大学生の男性で，嘘の具体例を書いたうちの46%が「肯定派」，31%が「否定派」であったのにたいし，具体例を書かなかったほうは，「肯定派」34%，「否定派」21%であった。

嘘を悪いものと否定しながらも，女性では24%，男性では31%の人が，嘘の具体例を書いていた。つまり，実際には嘘をついているということになる。「嘘イコール悪いもの」という図式は，一種の建前論であるとも考えられる。

なかには，嘘をつく自分，つかざるをえない自分を嫌悪している者もみられる。これなども，現実と理想との板挟みになった状態，とみることができるかもしれない。

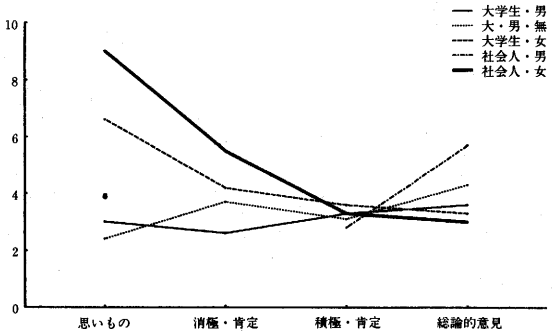

図1　LIE得点と嘘のイメージの関係
［注］大・男・無は大学生、男性、嘘の内容の記述無しを示す

4．LIE得点と嘘のイメージ

嘘のイメージのタイプ別に，LIE得点の平均をとってグラフにしたのが図1である。

G大学生の男女をみると，嘘の「悪いもの」グループと「消極的肯定」グループの場合，女性のほうが男性よりもLIE得点が高く，「積極的肯定」グループでは男女ともほぼ同じ得点，「総論的意見」グループでは男性のLIE得点がやや高くなっている。

社会人のほうは，サンプル数が少ないのだが，傾向は同じである。

女性の場合，「嘘イコール悪いもの」という人の得点が高いことの解釈として，次の3つのことが考えられる。第1に，嘘をついても実際にはそのことを悪いことと思っていないのかもしれない。第2に，嘘を悪いことだと思っているからこそ，逆に嘘を隠してしまおうとする，つまり，LIE得点が高くなるのかもしれない。第3に，嘘のとらえ方が，そもそも，嘘を肯定的にとらえている人とは違っているのかもしれないということである。

また，男性において，「総論的意見」の人のLIE得点が高いのは，自分の態度や意見ではなく，第三者的なとらえ方をしてみせる，という建前論的逃げがあるとも考えられる。

ただし，いずれにせよ，サンプル数が少ないので，ここではケース・スタディ的にしかとらえられない。

5．嘘の内容分析

(1)嘘の類型化

嘘の内容を分析する対象となった嘘の総件数は，

G大学生の男性で62件，女性で62件，社会人の男性46件，女性43件であった。（それぞれ被験者数が異なるにもかかわらず，嘘の総件数が男女でほぼ同じになったのは，まるで「嘘」のようである）。

嘘の内容は，次の12タイプに分けられた。

①予防線：たとえば，人との約束を何か理由をつけて断わったり，行き先や目的を本来とは異なる形で相手に告げたりするというように，予測されるトラブルをあらかじめ避けようとする嘘

②合理化：守れなかった約束や遅れた理由など，終わってしまったことを責められたときに持ち出すいいわけや口実の嘘

③その場逃れ：何かをしたかどうかを問われたとき，していないにもかかわらず「した」とその場でとっさに答えてしまうような一時しのぎの嘘

④利害：金銭などがからんでいる場合で，相手との関係を，自分が得をしたり有利になったりする形にもっていこうとする嘘

⑤甘え：自分を感情的に理解したり養護したりしてほしいという意図を含んだ嘘

⑥罪隠し：自分のした悪いことを隠そうとする嘘

⑦能力・経歴：自分の能力や経歴を高くあるいは低くいうことで，相手との関係のなかで自分を優位に立たせようとする嘘

⑧見栄：買った馬券がはずれたにもかかわらず当たったとか，ガールフレンドがいないのに「いる」といってしまう，自分をよく見せたり目立たせたりしたいためにつく嘘

⑨思いやり：真実を話してしまうと，相手が傷つくと思われる場合，それを避けようとしてつく嘘

⑩ひっかけ：本当のことがわかっても，お互いに笑ってすませられるような，からかいとか冗談の類の嘘

⑪勘違い：嘘というより，自分の知識の不足や勘違いから，結果として嘘になってしまう嘘

⑫約束破り：いったんした約束が，何らかの理由で守れなかったときに生じるもので，必ずしも意図的とは限らない嘘

以上12のうち，「⑦能力・経歴」と「⑪勘違い」は大学生にのみみられ，「⑫約束破り」は社会人にのみみられた。

(2)嘘の傾向

G大学生と社会人をあわせ嘘の総件数が10％以上になる嘘の類型について検討した。その結果，もっとも多かったのは「①予防線」（213件中61件，29％），次が「③その場逃れ」（35件，16％）で，「②合理化」（26件，12％），「⑧見栄」（25件，11％）と続く。10％を少し切ってはいるが，比較的多かったものは，「④利害」と「⑨思いやり」であった（どちらも17件，8％）。

次に，G大学生と社会人をわけて分析する。図2，図3は，嘘の内容を，男性，女性のそれぞれ件数の

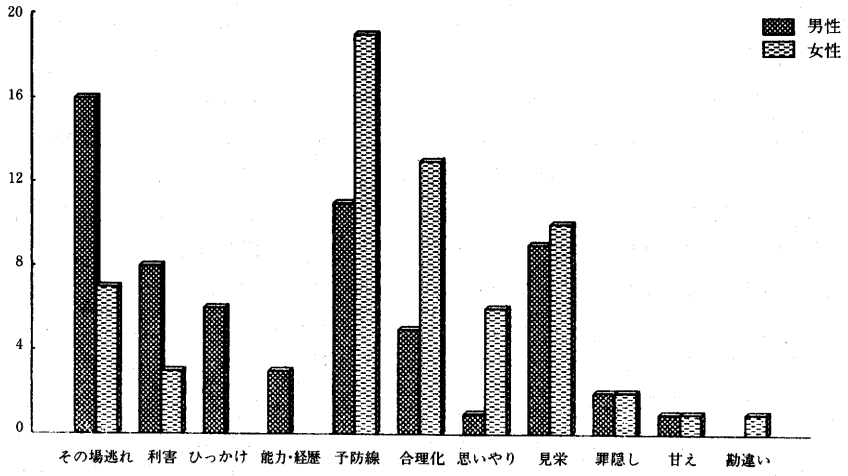

図2　性別から見た嘘の内容に関する類型（人数）
―G大学生の場合

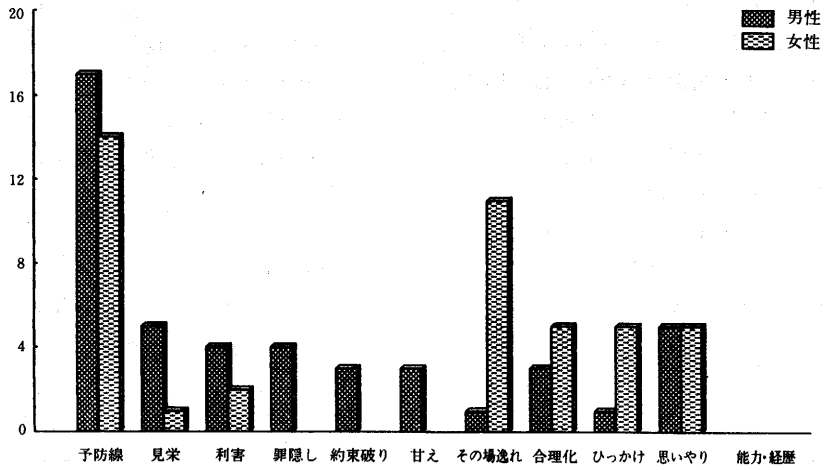

図3　性別からみた嘘の内容に関する類型（人数）
—社会人の場合

多いもの順，および男女とも件数が同じくらいのものという順に並べてみたものである。

まず，G大学生をみる(図2)。男性，女性をいっしょにしてみた場合，件数が多かったものをその順にあげると，「①予防線」(124件中30件，25%)「③その場逃れ」(23件，19%)「⑧見栄」(19件，16%)「②合理化」(18件，15%）であった。

男性のほうが多かったもの，男性のみにみられたものは，「③その場逃れ」「④利害」「⑩ひっかけ」「⑦能力・経歴」である。

女性に多く見られたのは，「①予防線」「②合理化」「⑨思いやり」であり，男女ともほぼ同数だったのは，「⑧見栄」「⑥罪隠し」「⑤甘え」であった。

社会人のほうをみると(図3)，男女をいっしょにした場合，件数の多いものからあげると，「予防線」(89件中31件，35%)「③その場逃れ」(12件，13%)「⑨思いやり」(10件，11%）であった。

男性のほうが多かったもの，男性のみにみられたものは，「⑧見栄」「④利害」「⑥罪隠し」「⑫約束破り」「⑤甘え」であった。

女性のほうに多く見られたのは，「③その場逃れ」「②合理化」「⑩ひっかけ」であった。

また，男女どちらも多いものは「①予防線」，同数なのは「⑨思いやり」であった。

G大学生と社会人の男性・女性に共通して多くみられたのは，男性では「④利害」，女性では「②合理化」であった。

また，男女をいっしょにしてみた場合，「①予防線」と「③その場逃れ」は，G大学生・社会人ともに多かったが，「⑨思いやり」は社会人に，「⑧見栄」はG大学生に多くみられた。

以上のことから，次のような傾向があると考えられる。

第1に，件数の多かったものに限定すると，「嘘は必要」「嘘も方便」というかたちで多くの人が容認し，かつ使っている嘘は，人間関係のわずらわしさや問題を避けようとする「予防線」的な嘘，人間関係のほころびを取り繕ったり，自分の身を守ろうとする「合理化」や「その場のがれ」的な嘘らしいということが推測される。

第2に，大学生は，まだ能力や実力が未熟であることを自覚しつつ，自分をよりよく見せようとするために「見栄」的嘘が，一方，社会人では，それまでの人間関係をこわすまいとするために「思いやり」的嘘が，それぞれにおいて容認されやすいので，より高い頻度で利用されていると考えられる。

第3に，男性の嘘のタイプ，女性の嘘のタイプが仮定される。

G大学生の男性の嘘は，「その場逃れ」「利害」，つまり人間関係において，自分の身を守る一時的・表面的嘘が多い。それにたいして，女性のほうは「予防線」「合理化」「思いやり」というように，自分の

表４　嘘の内容に関する類型とその対象者　―Ｇ大学生の場合

対象者　Ｇ大学生・男性（件数）

類　型	父親	母親	両親	家族	友人	異性	上位者	第三者	複数者	計
予防線		4	1				4		2	11
合理化		1	2			1	1			5
その場逃れ	2	2	4	1		3	3	1		16
利害		3	3		1			1		8
甘え			1							1
罪隠し					1				1	2
能力・経歴					3					3
見栄					8				1	9
思いやり				1						1
ひっかけ	1				5					6
勘違い										
計	3	10	11	2	18	4	8	2	4	62
(%)	4.8	16.1	17.7	3.2	29.0	6.4	12.9	3.2	6.4	(判別不可14件)

対象者　Ｇ大学生・女性（件数）

類　型	父親	母親	両親	家族	友人	異性	上位者	第三者	複数者	計
予防線		6	5		4		4			19
合理化		3	3		2	3	2			13
その場逃れ		1	1	1	3		1			7
利害	1							2		3
甘え		1								1
罪隠し			2							2
能力・経歴										
見栄			2		7				1	10
思いやり	1				3	2				6
ひっかけ										
勘違い					1					1
計	2	11	13	1	20	5	7	2	1	62
(%)	3.2	17.7	21.0	1.6	32.2	8.1	11.3	3.2	1.6	(判別不可８件)

身も守るが，相手との関係も保っておこうとする嘘のタイプといえる。

社会人の男性は，「見栄」「利害」などで相手より優位に立とうとしながらも，「予防線」的嘘で人間関係もうまく保っていこうとする。女性のほうは，「予防線」「合理化」的嘘で相手との関係を保ち，「その場逃れ」という表面的な嘘をつく反面，「ひっかけ」的嘘をつく余裕もある，というように学生にくらべて嘘にも幅があるといえる。

こうしてみると，男性は相手とうまくやっていこうとしながらも，いつも相手より優位でありたいとするために嘘をつき，女性は，とにかく相手との関係をうまく保っていこうとして嘘をつく傾向があるといえるかもしれない。

６．嘘の内容と嘘の対象者

どんな嘘を誰にたいしてついたかをまとめたのが表４（Ｇ大学生），表５（社会人）である。

(1)大学生の場合

Ｇ大学生の場合，「上位者」にはアルバイト先の上司的な存在が多い。また「第三者」とは，警察官とか駅員といった，通りすがりに関わった人をさす。

嘘のつき方の多さ，つまり嘘のつきやすさ，とか嘘の内容から，嘘をつく当人と相手との接触頻度や

表5　嘘の内容に関する類型とその対象者数　―社会人の場合

対象者　社会人男性（件数）

類　型	配偶者	子ども	親	家族	親族	友人	異性	同僚	上位者	下位者	第三者	複数	計
予防線	4	1	2	1		2		1	3		1	2	17
合理化	2				1								3
その場逃れ											1		1
利害			1						1		2		4
甘え			1			1						1	3
罪隠し			2				1				1		4
能力・経歴													0
見栄					1	2						2	5
思いやり		1				2			1	1			5
ひっかけ					1								1
約束破り	1			1				1					3
計	7	2	6	2	3	7	1	2	5	1	5	5	46
(%)	15.2	4.3	13.0	4.3	6.5	15.2	2.1	4.3	10.9	2.1	10.9	10.9	

対象者　社会人女性（件数）

類　型	配偶者	子ども	親	家族	親族	友人	異性	同僚	上位者	下位者	第三者	複数	計
予防線	3		1		1	4		2	2			1	14
合理化		2		1					1			1	5
その場逃れ	1	1	2	1	1	1	1		1		1	1	11
利害								1			1		2
甘え													
罪隠し			1										1
能力・経歴													
見栄										1			1
思いやり		2	1		1						1		5
ひっかけ		3	1			1							5
約束破り													
計	4	8	6	2	3	6	1	3	4	1	3	3	44
(%)	9.3	18.6	14.0	4.7	7.0	14.0	2.3	7.0	9.3	2.3	7.0	7.0	

関係の深さがうかがえる。

G大学生では，やはり親との関係が非常に大きい。次に友人との関係が深いと考えられる。

男性の場合，親との関係を何とかスムーズに運ぼうとする一方で，しっかり自分の利益になるようにも働きかけている。女性は，干渉の多い親から身を守ろうとする嘘が多いと思われる。

また，友人との関係でも男女は微妙に違っている。男性は相手にたいして見栄をはったり，ひっかけたりする嘘が多い。それにたいし，女性は，見栄もはるが，親に対するのと同じような，相手との関係を保っていこうとする嘘が多い。いいかえると，男性の友人関係はまだ表面的であり，女性はベッタリ型といえるかもしれない。

男性・女性ともに共通しているのは，親（ことに母親）に対する嘘のつき方と，上位者にたいする嘘のつき方が似ているということである。人間関係のもち方が，まだそれほど使い分けられていないのだとも考えられる。

(2)社会人の場合

社会人の場合には，「上位者」は上司，「下位者」は部下をさしている。同居している者は「家族」，別に居をかまえている者は「親族」とした。

調査対象となった女性のほとんどが勤めている人

であったためか，男性・女性ともに，嘘の対象者にたいして嘘をつく頻度，つまり関わり方は，ほとんどの人にたいして同じ傾向がみられた。ここで得られた結果は勤め人パターンとでも呼ぶべきかもしれない。

ただ，異なっていたのは，対象者が「配偶者」と「子ども」の場合である。男性は，子どもよりも配偶者にたいして嘘をつく頻度が高く，女性はその反対であった。このことは，日常生活での関わりの深さを反映しているといえるかもしれない。

社会人の場合，件数が少ないので一概にはいいきれないが，男性と女性では，嘘の内容から，それぞれ次のような人間関係のもち方の違いがよみとれた。

男性の場合，配偶者とはその関係を保っていこうとし，親・上位者とは利害をからめながらうまくやっていこうとし，友人とは，見栄をはりつつ関係を保っていこうとする。

女性の場合は，いずれの人ともその関係をうまく保っていこうとしていると考えられる。ただ，子どもにたいしては，関係がうまくいくことを前提に，少し余裕をもって対応しているように思われる。

Ⅳ　嘘の記述内容に関する事例

質問紙に記述された嘘の体験を事例としてまとめた。どんな嘘を何時（最近のものは特に明記しない），誰に（[　] の中に明記），その結果どうなったかの順に記述した。

1．G大学生の資料

(1)男性

①留年したのに進級したことになっている。[父親] まだばれていない。

②仮病（小学生の頃）[母親] ばれずにしっかり学校を休んだ。

③スイミングスクールに行きたくなかったので，「体の調子が悪く頭が痛い」と言って，寝ていた（小学校高学年）。[母親] スイミングに行かなくて済んだが，医者に連れていかれ「何でもない」と言われ，焦った。

④学校に行くと言ってデートした。[母親] ばれずにすんだ。

⑤参考書や教科書を買うと言って金をもらった（高校生）。[親] 金がたまった。ばれなかった。

⑥お菓子を勝手に食べたのに「知らない」と言った。[姉] 顔にすぐ出て，ばれた。

⑦デートがあったので，飲みに誘われたが「体の調子が悪い」と断った。[友人] 私は楽しかったが，友人には申し訳がない。

⑧財布がないと言って，友だちに昼ご飯を食べさせてもらう。[友人] バッチリ OK。

⑨試験がないのに「あるよ」と言った。[友人] 怒られた。

⑩人の経験をさも自分が経験したことのように人に語った。[友人] 信じてくれて，何の障害もない。このときは，話をつなぐために自分の経験だといった方が良いと考えた。

⑪女の子とドライブに行ったのに「男と行った」と言った。[恋人] 何ともなっていない。

⑫恋人がいるのに「いない」と言って，女の子と遊んだ。[女の子] 恋愛関係になった。今でもうまくいっている。

⑬仮病（中学生）。[先生] 見つかって，張り手を食らった。

⑭クラブの練習を休む時に「おじいさんが倒れた」と言った。[先輩] ばれなかったが，その後「おじいさんの調子はどうだ」と聞かれ嫌な思いをした。

⑮洋服の値札をはさみできる時，洋服の一部を切ってしまったので「欠陥商品だ」と言って持っていった。[店員] 新しい服が手に入った。

⑯両親は留守だと言った。[新聞の勧誘員] 「また来る」と言って帰った。

(2)女性

①自分が既に持っている本を父親が買ってきてくれた時，持っていないようなふりをした（中学生）。[父親] がっかりさせなくて済んだ。

②学校に行きたくなかったので仮病を使った（小学生）。[母親] 気づいていたと思うが黙って休ませてくれた。そのうち，その癖は直ってしまった。

③試験期間の最中に一日遊びに行く時に「図書館で勉強してくる」と言った。[母親] 何も知らず「お帰りなさい」と言った。

④女友だちと行くと言って，違う人と旅行に行った。

［親］OKだった。ばれなかった。
⑤妹から物を黙って借りていたのに,「どこにあるか知らない？」と聞かれて「知らない」と答えた（中学生)。［妹］こっそり返しておいたが，妹は納得がいかない様子で，私を疑っていた。
⑥実は一生懸命勉強してテストを受けたのに「何も勉強していない」と言った。［友人］お互いに笑い合っていた。勉強した割りにできが悪かった。
⑦知らないことをつい「知っている」といってしまう。［友人］後で，知らなかったことがばれて恥ずかしい思いをする。
⑧待ち合わせのとき,すごく遅れたので「時計が狂っていた」と謝った。［友人］しょうがないという感じで許してくれた。
⑨友だちと同じ人が好きになってしまったので，その友だちに「そうではない」と言った。［友人］もしかしたら友だちは気づいていたかもしれない。すごく心苦しかった。
⑩他の大学の男の子たちと遊んだのに「歯医者に言ったの」と言った。［恋人］彼に「どうしていってくれないの。オレは信用されていないみたいじゃない」と責められた。
⑪交際を申し込まれたが,「好きではありません」とは言えずに「好きな人がいる」と言った。［異性の友人］はじめはちょっとしつこかったが，一応納得してくれ，問題はなかった。
⑫「雨が降って，かさがないので休みます」と言った（高校生)。［担任の先生］その時は「おもしろい冗談いってんじゃない」と言われたが，翌日，怒られた。
⑬試験前で勉強が終わりそうになかったので，風で熱があると言ってバイトを休んだ。［バイト先のチーフ］その4～5日後，本当に風邪をひき，39度7分の熱を出し，試験中はフラフラ。バイト先にばれなかったのが，不幸中の幸い。
⑭歳をごまかして電車に乗った。［JR改札口］何も言われなかった。
⑮美容院に行った時高校生と思われてしまったので，高校生で押し通してしまった。［美容院の人］高校生料金で済んでしまい，何も言われなかった。

2．社会人の資料

(1)男性
①マージャンで遅い帰宅を「仕事が忙しいから」といった。［妻］マージャンのメンバーと何時も同じ時間に帰るのでわかってしまった。
②子どもの遊びに用事があるとつき合わない。［子ども］問題無し。
③仮病（小学生)。［親］ばれた。
④ガラスを割ったのに，割ってないといった（小学生)。［親］うやむやになった。
⑤子どもの高校受験校名。［兄］3月の発表待ち。
⑥日時を忘れて甥の結婚式に遅れた時,「突然の仕事で間に合わなかった」といった。［義兄］まだ，嘘のまま。
⑦ボーナスの額をごまかした。［友人］友人より低いことで友人は喜んでいた。
⑧夏休みに海外旅行にいったとクラスで発表した（小学6年生)。［友だちと先生］今でも思い出すと恥ずかしい。
⑨つき合っていない人とドライブにいった。［恋人］まだ，知られていない。
⑩一緒に行こうといっていたお店に別の人といってしまった。［同僚］何ともなっていない。
⑪書類の一部を「相手が直した」と嘘をついて自分で直した。［上司］書類が通って，仕事が前に進んだ。
⑫年休を取る時，ない用事をつくる。［上司］問題無し。
⑬わざと反対のことをいって，本人をその気にさせる。［部下］後味が悪く，いずれ本音を明かしたいと思う。
⑭バイクに乗っていて捕まった時，警官に「いま生活が苦しくて罰金が払えない」といった。［警官］減点も罰金もなしになった。
⑮運転免許証の更新の時，過去3年間無事故無違反ですかの質問に「はい」と答えて受付を済ませた。［交通安全協会の受付係員］コンピューターに速度違反が登録されていたので，講習を受けることになった。

(2)女性
①買い物に行くといって出て，喫茶店でタバコを吸って一服していた。［夫］ばれていないと思うが，罪悪感はある。

②観劇や音楽会（あらかじめ決まっているのに）に「友人に急に誘われた」という。[夫]トラブルなし。
③夕食前にお菓子を食べたくてこっそり食べたのを子どもにみつかり，「味見よ」と答えた。[子ども]子どもに「そのお菓子，ちょうだい」といわれたので「夕食の後で」とごまかした。
④年齢を何時も若くいっている。[小学生の子ども]いつまでも歳が増えなくて，どの年齢が本当かわからないらしい。
⑤自分の年齢（40歳）を「20歳」という。[5歳の子ども]保育園に伝わり，大笑いになった。
⑥サンタクロースは本当にいる。[小学3年生]まだ信じている。
⑦休みであるのに勤務をしているといった。[親]何の影響もなかった。
⑧死んだふり（3歳の頃)。[親]放っておかれた。
⑨病名。[母親]医者の誤診で事なきを得た。
⑩「ガスの元栓を閉めた？」と聞かれ，「はい」と答えた。[義母]本当は閉めてなかったので，返事の後で閉めにいった。
⑪病人に，身内の人のけがを元気なように話した。[兄の妻]知られずに済んでいる。
⑫嫌いな食べ物を「好きだ」と言った。その人はその食べ物が大好きでした。(学生の頃)「好きな男性]一緒に食事する時，その食べ物が出てきて，大変困った。
⑬原因がはっきりしていたのに，体の不調を訴えた。[同僚]皆から休むよう言われ，困った。
⑭年休を取る時，家族の病気のせいにした。[上司]休めたが外出した時に後ろめたさを感じた。
⑮交通事故の時，本当は60キロ位だったのに「制限時速を守っていました」と言った。[警察官]信じてもらえなかった。
⑯子どもがいないのに「いる」と言った。[患者さん]親しみがわいた。

V　おわりに

deception（嘘）とは何かについての問題にはふれなかったが，対人関係の中で，誰にどのような嘘が使われているかについての傾向がわかった。また，嘘のイメージを分類することができた。

本研究では多変量解析などの統計的な処理を行わなかったので，あくまでも主観的な判断によるひとつの傾向を把握することができたに過ぎない。しかし，いろいろな人間関係の中で曖昧模糊としているdeceptionの全体像を垣間見ることはできた。次の段階として，これらの知見に基づいた統計的処理に耐えうるようなデータの集積を検討している。

今回のようなdeceptionの調査研究をさらに進めることによって，対人的ネットワークの構造や，人間関係の緊密度，対人的な態度などを明らかにすることができると思われる。

引用文献

1）Special Issue on DECEPTION. Part I (1988) Journal of Nonverbal Behavior, 12 : 151-233.
2）Special Issue on DECEPTION. Part II (1988) Journal of Nonverbal Behavior, 12 : 237-307.
3）大坊郁夫，瀧本誓(1992)対人コミュニケーションに見られる欺瞞の特徴．実験社会心理学研究，32：1-14.
4）湯田彰夫，古谷健（1988）嘘をつくに際しての規定因と嘘に対する許容度について．日本社会心理学会大会論文集，29：121-122.
5）工藤力（1981）欺瞞の手がかりに関する実験的分析．日本社会心理学会大会論文集，22：67-68.
6）三宅進（1989）ウソの発見．中公新書，東京.
7）仲村祥一，井上俊　編（1982）うその社会心理．有斐閣選書，東京.
8）相場均（1965）うその心理学．講談社ブルーバックス，東京.
9）P. エクマン　工藤力訳（1992）暴かれる嘘．誠信書房，東京. Ekman, P. (1985) Teling leis. Carol Mann Agency, New York.
10）A. リッチ　大島かおり訳（1989）嘘・秘密・沈黙．晶文社，東京. Richi, A. (1979) On lies, secrets, and silence.
11）S. ボク　古田暁訳（1982）嘘の人間学．TBSブリタニカ，東京. Bok,S. (1978) Lying : Moral Choices in public and private life.
12）H. ヴァインリヒ　井口省吾訳（1973）うその言語学．大修館書店，東京. Weinrich, H. (1967)

Lingustik der Luge. Verlag Lambert Schineider.
13) Taylor, J. A. (1943) 阿部満洲，高石昇（構成者）日本版 MMPI-MAS. 三京房，東京.
14) Jourard, S. M. & Lazakov, P. (1958) Some factors in self-disclosure. Journal of Abnormal and Social Psychology, 56, 91-98.
15) DePaulo, B. M., Stone, J. I. & Lassiter,G. D. (1985) Telling ingratiating lies: Effects of target sex and target attractiveness on verbal and nonverbal deceptive success. Journal of Personality and Social Pychology, 48, 1191-1203.

Abstract

The Deception in Personal Relations

Shozo SHIBUYA and Sonoe SHIBUYA

To investigate how people utilize deception in their personal relations, a questionnaire survey was undertaken in university students and full-fledged members of society.

Analysis of the survey data disclosed the follwing trends. 1. In answer to what images the subjects had of deception in general, they could be categorized into the following four types; (1) those who considered deception as a vice, (2) those who took an affirmative view of deception, though passively, (3) those who viewed deception as a necessary evil and (4) those who argued on the general concept of deception. 2. When analyzed from the relation between the images of deception and lie scale, the lie scale score was high in women who considered deception as a vice. 3. The nature of deception could be divided into 12 patterns. Deceptions used for self-defense amounted to 29 % and those invented speciously amounted to 16 %.

The results indicated that the characteristics of the personal relation of each subject could be outlined by analysis of the parties on whom deception was placed and the patterns of deception.

Department of Psychology